

瀬戸内の 浅海 を考える

せんかい【浅海】

1 浅い海。

2 海岸から大陸棚外縁までの海。
水深約二百メートルまでの海。

日本学会議中国・四国地区会議公開学術講演会

瀬戸内圏 研究シンポジウム ～浅海の生産環境と防災～

日時

平成19年

11/20 (火)

13:30~17:00

場所

サンポートホール高松
第1小ホール

主催：日本学会議中国・四国地区会議
共催：国立大学法人香川大学、財団法人日本学術協力財団

第 I 部 基調講演

特別講演 「瀬戸内海の新たな再生方策としての「里海」づくり」



瀬戸内海研究会議会長
広島大学名誉教授

松田 治氏

※略歴は次頁参照

講演概要

最近、沿岸域の環境や生態系の保全、持続的な利用をめぐる論議の中で「里海」が重要なキーワードになっている。例えば、本年6月に閣議決定された「21世紀環境立国戦略」の“今後1、2年に重点的に着手すべき8つの戦略”には「豊饒の里海の創生」が入っており、実際、平成20年度には環境省の「里海創生支援事業」なども始まる予定である。農水省の農林水産省生物多様性戦略（07年7月）にも大幅に「里海」が盛り込まれたので、今後、「里海」が全国的な施策に反映される可能性も少なくない。これらの背景には海洋基本法の制定（07年4月）もある。瀬戸内海研究会議では、ここ数年来、瀬戸内海環境保全知事・市長会議とも連携をとりながら、“里海”の考え方を中心にした瀬戸内海の再生方策”について様々な検討を進めてきた。この新たな瀬戸内海の再生方策の基幹となる考え方が「瀬戸内海を豊かな里海にしていく」里海づくりである。人と海との新たな共生のあり方を示す里海づくりの基本的な考え方、検討の経緯や現在の進捗状況などを紹介したい。

研究報告 「浅海域としての瀬戸内海研究」



香川大学農学部
教授

多田 邦尚

略歴

昭和35年 大阪府生まれ
昭和58年 香川大学農学部卒
昭和60年 香川大学大学院農学研究科修士課程修了
昭和63年 北海道大学大学院水産学研究科
博士後期課程単位取得退学
平成2年 香川大学 助手
平成9年 香川大学 助教授
平成14年 香川大学 教授
現在に至る

報告概要

瀬戸内海は、我々にとって身近な海であると同時に、世界でも稀なすばらしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海です。我々の研究グループ（チーム瀬戸内海）では、瀬戸内海のなかでも、特に、我々が普段目にする身近な浅い海の特徴や、そこで起きているさまざまな現象（ノリの色落ち、養殖場の環境管理、干潟域の生物機能、河川からの栄養塩流入や海砂利採取）について研究しています。本シンポジウムでは、我々の研究グループで得られた研究成果について紹介します。瀬戸内海を大きな海（器）としてではなく、身近な浅海域としてとらえ、その環境あるいは、そこに生息する低次生産者（小型・大型藻類とその捕食者）の特徴を明らかにし、我々の身近な瀬戸内海に対する理解を深め、さらに、その自然をどのように守り、また地域住民あるいは地方自治体が海とどのように触れ合っただけでよいのかを追求することを最終目標としています。

「浅海における物質の輸送機構解明と防災への活用」



香川大学工学部
准教授

末永 慶寛

略歴

昭和39年 山口県生まれ
平成5年 日本大学大学院博士後期課程修了 博士（工学）
平成8年 香川大学農学部 助手
平成9年 香川大学工学部 助手
平成12年 香川大学工学部 助教授
平成19年 香川大学工学部 准教授
現在に至る

報告概要

瀬戸内海の浅海域における各種開発は、海底地形を変化させ、有用水産生物の産卵・生育場に少なからず影響を及ぼしてきた。本報告では、瀬戸内海の流動環境を数値モデルにより再現し、海砂採取による海底地形の変化が稚魚輸送に与える影響を検討した結果を紹介する。また、本モデルを用いたタンカー衝突事故に伴う重油の流出機構に関する検討結果から、海上で突発的に発生した事故に対する防災対策としての活用法も提案する。

第Ⅱ部 パネルディスカッション

パネリスト 「浅海の生産環境と防災」



香川県環境森林部長
青山 忠幸氏

略 歴

昭和42年 愛知県生まれ
平成3年 東京大学法学部卒業
平成3年 自治省入省
平成14年 総務省自治税務局市町村税課長補佐
平成16年 香川県政策部次長
平成17年 香川県環境森林部次長
平成18年 香川県環境森林部長
現在に至る



香川県魚市場株式会社
代表取締役社長
山本 啓一氏

略 歴

昭和15年 香川県生まれ
昭和34年 大京魚類株式会社入社
昭和43年 香川県魚市場株式会社入社
昭和61年 香川県魚市場株式会社代表取締役社長
現在に至る



瀬戸内海研究会議会長
広島大学名誉教授
松田 治氏

略 歴

昭和19年 群馬県生まれ
昭和43年 東京大学農学部卒業
昭和46年 東京大学大学院農学研究科 博士課程中退
昭和46年 広島大学水畜産学部 助手
昭和53年 農学博士（東京大学）
昭和55年 広島大学生物生産学部 助教授
平成2年 広島大学生物生産学部 教授
平成14年 広島大学大学院生物圏科学研究科 教授
平成15年 同退職、広島大学名誉教授、瀬戸内海研究会議 会長
現在に至る



香川大学工学部教授
白木 渡氏

略 歴

昭和24年 福岡県生まれ
昭和49年 関西大学大学院修了
昭和49年 鳥取大学工学部助手
昭和58年 鳥取大学工学部助教授
昭和62年 インスブルック大学客員教授（1年間）
平成10年 香川大学工学部教授
現在に至る

スケジュール

開会挨拶

- 13:30～13:40 武田 和義 日本学術会議中国・四国地区会議代表幹事、
岡山大学資源生物科学研究所長
- 13:40～13:45 一井 眞比古 日本学術会議連携会員、香川大学長

第Ⅰ部 基調講演

特別講演

- 13:50～14:20 「瀬戸内海の新たな再生方策としての「里海」づくり」
松田 治氏 瀬戸内海研究会議会長、広島大学名誉教授

研究報告

- 14:20～14:50 「浅海域としての瀬戸内海研究」
多田 邦尚 香川大学農学部 教授
- 14:50～15:20 「浅海における物質の輸送機構解明と防災への活用」
末永 慶寛 香川大学工学部 准教授

20分間休憩

第Ⅱ部 パネルディスカッション

15:40～16:55 「浅海の生産環境と防災」

- パネリスト：青山 忠幸氏 香川県環境森林部長
山本 啓一氏 香川県魚市場(株) 代表取締役社長
松田 治氏 瀬戸内海研究会議会長、広島大学名誉教授
白木 渡 香川大学工学部 教授
コーディネーター：多田 邦尚 香川大学農学部 教授

閉会挨拶

- 16:55～17:00 前田 肇 香川大学理事(学術担当)

MEMO